

生乳脂肪酸組成を利用した乳用牛の飼養管理向上

【研究概要】

農家飼養搾乳牛の1年分の生乳試料（約4,000サンプル）を用い、分娩回数（初産または2産以降）別に、分娩後日数による生乳中の脂肪酸組成割合（デノボおよびプレフォームド）の推移を調査し、統計的処理により標準値の算出を試みた。その中で今年度は下記の成果が得られた。

- （1）分娩後日数における測定値の推移では、デノボは分娩後に低く、日数経過とともに上昇後、ほぼ一定値となった。プレフォームドはデノボの逆で、分娩後は高く、日数経過とともに下降し、ほぼ一定値となった。
- （2）統計処理により分娩後30日以下、31～60日以下、61日以上の3段階でデノボ、プレフォームドの標準値（暫定）を作成した。分娩後30日までは、ともに数値が安定せず、疾病リスクが高いことが考えられたため、2段階の標準値を設けて、高リスクとなる前段階の標準値を作成し、健康状態の把握や疾病リスクの目安を明確にした。